週刊 磐城之實業

每週日曜日發行

發行兼編輯 印刷人 大和田興兵衛
發行所 磐城之實業社
定價 一部金五錢 半年分一圓廿錢
廣告料 一行三十錢
印刷所 大和田印刷所

本紙の主義信條

何人たりとも本紙の常用する紙面を快諾し解放す 本紙は上記の如く於て[illegible]報或は誤解よりの直ちに[illegible]勿論の取消すべし

昭和八年を送る

頭を回らせば昭和八年の一九三三年は羊のやうにおとなしい年ではなかつた 波瀾重畳をきわめ、騒乱と混迷——日本も世界も、かうした一大狂乱のなかに、地平線の彼方、残映もなく陽は墜ちて昭和八年の落日は愈々迫つた

×　×

過ぎ去つた一年け、まこと慌たしい紛糾そのもの、一年であつた、年々歳々、歳月は語らず終久無限の空間を、音もなく流れてはゆくけれども、人生流轉の種々相は、これに反して歳々年々、混乱と狂燥の度を益々加へてゆく觀がある、特に昭和八年は吾人に對して、かうした感慨を一層切實ならしむものがあつた

×　×

今、過ぎ去つた日本の一年間を顧望し、更に世界の一年を回顧して所謂内外多事、そこには雑然、混然たるもの、外、何物もない、然も特にこの一年間、吾人の頭脳を最も強く刺戟した一事實は、政治上の諸現象に於て現在の大和民族が完全に過渡時代の混迷裡に彷徨し國民大衆が政治的懷疑症に陥つたといふことである 即ち年の始めより待ち越されたいはゆる非常時の實質内容は、今年中途に解消の機運に遭遇せず從つてこの一旋風の中に[illegible]せられた全國民は、その去就に迷ひ、その前途を[illegible]するに苦んで右往左往、狂燥は遂えに直接行動とまで進展してしまつたのである、いはゆる憲政の常道は政黨そのもの、醜態暴露を契機として實際上姿を化し去り、また之に對立すべき彼のファシヨ的動向も理論上、實際上、未だ多くの未解決のものを殘して國民大衆の全面的支持を受くるまでに至つて居ない、從つて斯かる政治的動向は、それが直接現實政局に反映して齋藤内閣、存續を許容するの己む無き形勢となり過渡的腰掛け的現内閣は老骨齋藤の退嬰人物を擁しながらもなほ且その命脈を保ちつゝあるのである

×　×

更にこれを社會思想の上より見るも、今年下半期から起つたいはゆる轉向時代の特異現象はマルクス陣營の有力なる闘士をして、續々その赤旗を轉換せしめ世人瞠目の裡に、彼等はその『赤の宣言』を抛棄することを證明した、斯る特異現象はともかく、[illegible]さず、一般大衆の懷疑的思想を代表するものであり、從つて現在が過渡時代の一環であることを如實に裏書して居るのである

×　×

かくして昭和八年は、現在あるがまゝの一切の過渡的夾雑物を内包して來るべき新歳へと轉行する、然も歳月人を待たず舊歳より持越されたる過渡的混迷時代の諸現象け、すべて新らしき昭和九年の希望と憧憬との中に於て處理し、解消しなければならぬ、黄昏より黎明へ、混乱より整調へ——今日本は、そして世界は、大洋の彼方、さし昇る新らしき太陽を、ひたすらに待ちわびて居るのである

日立、入山兩社間の 妥協近日中に解決か
新料金の落着は各方面から興味

日立電力、入山採炭兩社の電力三千キロワット、電給契約繼續に伴ふ電力料金の改訂その他の條件變更の交渉は目下兩社首腦部間に於て漸次進行はれてゐるが入山採炭として假契約したキロワット當り一錢五毛を強調し一方日立電力としては現行契約電力料金たるキロ一錢十厘ロードファクター七十三%を基礎として多少の讓歩、即ちロードファクターを有利化し電力料金に最低一錢五厘を強調してゐるもの、如く其間歩み寄りを多少難色ありとされてゐたが最近條件への事務的交渉もあり夫れに今年末の現契約條件の滿了後となつてゐる關係上兩社間に[illegible]的に妥協點運を見出し、此處數三日中に妥協成立を見るものと豫想されてゐる。條件の妥協點と目せられる條件は一キロ一錢三厘五毛ロードファクター八十%の見當で或はこの見當を上下するものではないかとされてゐるが何れにせよこの電力料金は從來の經緯から料金の落付きに各方面の興味をよんでゐる

自動車營業者脅威

本年の[illegible]で[illegible]中[illegible]

本縣五十萬以上の金滿家

三百萬	川俣	醤油、貸	武藤茂平
同	郡山	銀行、營業	佐藤富兵衛
二百五十萬	耶麻	貸地、貸金	風間[illegible]九郎
二百萬	平	金物	諸橋久太郎
百五十萬	北會津	農	牧原源一郎
同	桑折	農	角田林兵衛
百五十萬	野田	農	阿部紀右衛門
同	細上	農	島貫平助
百四十萬	石城、好間	炭礦	小田吉次
百二十萬	耶麻	農	長島三六
百萬	信夫、島川	農	矢吹友右衛門
同	郡山	穀物、油類	佐藤傳吉
同	北會津	貸金、農	齋藤庄治
同	若松	金融	齋藤庄四郎
同	同	酒造業	新城猪之吉
七十萬	郡山	肥料、海産物	遠藤[illegible]三治
同	若松	茶、糸	齋藤惣三郎
同	塩川	農	北村英一
同	平	油、砂糖	西澤才八郎
六十萬	石城、内郷	貸地、貸家	加藤丈夫
同	石城、泉	貸金	江尻[illegible]孝
同	若松	肥料	阿部澤平太
同	東白河、常豐	農工頭取	白石巌
五十萬	大沼	農	五十嵐清太郎
同	喜多方	醤油、味噌	井上忠藏
同	伊達、月舘	呉服	半澤吉四郎
同	耶麻、松山	農	小澤平八
同	西白河	銀行重役	大谷五平
同	信夫、清水	農	大内六右衛門
同	大宮	肥料就長	渡邊[illegible]
同	若松	塗料、金融	加藤榮次郎
同	白河	醤油、質	川瀬作兵衛
同	瀬上	貸金、農	金子セツ
同	信夫、清水	農	瓶子長六
同	郡山	農	横田[illegible]衛門
同	若松	漆器商	高瀬喜左衛門
同	福島	農	武田綱重郎
同	川俣	酒造業	氏家又次郎
同	平	醤油	山崎與三郎
同	長沼	呉服、農	深谷宗直
同	若松	木綿、醤油	鵜西伊兵衛
同	本宮	農	小松四郎治
同	信夫、平野	貸金、農	紺野欽信
同	同	農	紺野紫右衛門
同	耶麻、關柴	農、金融	遠藤源吾
同	信夫、荒井	同	阿部和太治
同	伊達、小坂	農	佐藤清右衛門
同	相馬、新地	金融	目黒平治
同	原町	同	門馬直記
同	若松	海産物肥料	瀧川幸太郎
同	白河町	銀行業	鑑谷藤藏
同	伊達	電氣重役	鈴木文七

（以上五十二名）

兎毛副業 鹿島村に組織

石城郡鹿島村江尻中氏は多年農村問題解決に就ては研究怠りなく既に研究完く實際の權威者として推しも推されもせざるの士なるが最近理想實現の一端として同氏の提唱にて代議士が社長たる東京アンゴラ兎毛株式會社の特約組合を鹿島村に設立し一ヶ年一萬圓の收入を見る豫定にて近く村民大會を開くべく左の趣意書を各戸に配布せられるが同村の教育者、有志の大賛成は期して待つべく方より學平の世の中非常時に悩みつゝある村落民に於て組合を組織し農村經濟の更生を望む者は同氏に申込めば喜んで其手續きを成して見られる事なりと

現時の農村不況對策の[illegible]組織改善の一方途としてアンゴラ兎の飼育と共兎毛の合理的處理に依り一は農家收入の増加を圖り、一は年次多額の輸入をなす羊毛の壓迫を緩和し國際貸借改善をなすべく企劃し共事業の創立をなしたる鐘ヶ淵紡績株式會社の殆んど分社とも云ふべき東京アンゴラ兎毛株式會社の特約アンゴラ兎共同組合を組織し本村農家自治の精神に則り自力緊榮の趣旨を休して農家の自力更生に邁進致度候右の趣旨を徹底するが爲め種々協議致度候間萬障御繰合せ是非御參集被成下度此段貴意を得候也

石城郡鹿島村 江尻中

四倉の竹細工

四倉町に副業の必要なる所以は農業の關係上地勢と職業上の關係より今日に至る之と言ふ副業を發見し得ざる事は甚だ遺憾とする處であつた然るに今度栗原欣次郎氏は此際に大なる成果を擬し附近部落民に竹細工の技を授け縣に依頼中である阿部へ同氏が買上げる事で此計畫に就ては將來大いに期待せらる

問題のアグリ船 何の爲の建造か

四倉町漁業組合長たる木村倉治氏が町有志に自力更生の一助として計劃された鰹漁撈用アグリ船は既報の如く船体は夏期中に完成したるも未だ經營者が確定せず據置資金二萬圓と既定補助七千圓とは未だに活用をなさず八ヶ年も正に暮れんとするに町民は業をにやし居る樣だ夫れに昨今の鰹の漁は久しく[illegible]合に於て數十艘が毎日の漁であるには全く皮肉の感を深ふするもので一日も早く木村氏の行と決意とを町民は一擧に希望して居るのである

オアシ界夜ばなし

石城郡内で電燈を付けない家がザット三千戸はあらうとの話、下小川村、桐ヶ岡の四十戸や上小川村の總川、内倉、戸渡の三部落八十戸も無電燈部落の生活で石油一升が三十五錢見當として平均一夜に一錢五厘を用せば足ると一ヶ月四十五錢電燈料金八十錢で有れば下小川村大字下小川の戸數百四戸から電燈料金月百三十圓也を持ち去られるのと、それから小川平間を四倉の乘合自動車が十二回往復して一日三十三圓と見て月千圓は足代の支拂ひと消え去つてゐる其れに郡内全部では乘合自動車賃金正に月四萬四五千圓は農村から消費さして居るのであるとは相當の數字ではあるまいか

四倉便り
佐藤生

四倉町の漁港工事に關し漁業組合側は如何なる考へを以て臨むかを知る可く我々同志は本月一日突如として臨時總會を開催したのである然るに我輩は既に漁港工事の起工を前に於て波濤除は[illegible]の急を求むべく[illegible]られたのであつた同工事の進捗と共に漁港施設を一段と活用されて百五十人を限度に集中して吾人は漁業所を設置してあるのだ事務所は未だ目論見のつかざるまでに工事の刷新を見たる所で漁業の鑑價を買つてやるべき價値があるが故に漁港設立たるものや事に對しては地元民たる此際に當つて心とき行かなくも共同の漁業を堅持したる此處に於てはその變更をしたることを遺憾とせざるを得ないのである此處に於てるが故に今後を注目するの處あるを異口同音に唱へられたのである我等は常時町民の生命線たる漁港工事も町民の期待に添ふべきところあるを信じて疑はざる次第である

か漁業局の意を體として當局に迫られんことを草野、田子、落合、石川、井上、野崎の六議員に要望したのである然るに當局に於ては既に前述の如く一大飛躍を斷行され馬力をかけつゝある

米穀検査

米穀検査と言ふ事は何の爲めに行ふのであるか この判り切つた際なこの問題もさて判き詰つたならば縣の役人、検査員、検査者と生産者との一般消費者とは恐らく異つた理由を擧げるに違ひない 縣の役人、検査員から言へば恐らく百姓の爲めだと云ふ此の検査も百姓達はとても厄介なもので有り重荷であると感じてゐるのである。それは其検査なるものが餘りに小面倒であり手數なものであるからである其上近頃は機械搾と手搾と云ふ（機械搾とは機械の動力機を使用したもので言ひ手搾とは從來の搾り検査で搾つたものを言ふ）これ又百姓泣かせの事であるが非を矢釜敷くいふ事である其の生産物に標準とか規定とか等級とか點とかいふものゝある事は、いや定めて置くたる事は必要なことであり總ての上に當然な事であらう然しながら總ての標準が[illegible]といふ事は何とした事だらう凶作の年は検査が高い豐作の年は検査が安いといふ事は凶作の場合は何と云ふ理由であらうか、凶作の年の四等米の規定は豐作の年の不合格になる事は當然の事の様になつてゐる際である、これは收穫の少かつた時は検査を好くして米價を上げて多少でも收入を多くさせる氣なのかも知れないが其れとしたら大變な間違ひだ萬一それで十錢の收入でも多いとするなら、それは賣る米を持つ大地主か自作農だけで多數の一般農民に何等の益はないのである豐年だから検査が高いと言ふ事は何等理由が立たない筈である凶作でもいゝ米はいゝのである凶作でも悪いのは悪い筈である凶作年には規定づつた様に三等米が標準であり四等も少く不合格を普通米の標準にしてあるのである。本年の如き豐作年とは言ひながら天候も良好であつた關係上、米の質は好い筈であるに拘らず未だ三等米は愚か四等米すら出て來ないと言ふことを米屋が言つて居るのであるが何が爲めにそんな手加減をするのか誠に奇怪に堪へないのである これで豐作の年の標準が豊作なのか凶作なのか決定した一定標準がなければならない筈である、それがあるならば凶作だから豐作だからと言つて手加減する必要は斷じてない筈である『今年は検査が矢釜敷い』との言葉は一体誰の言葉であるか考へさせられる

廣告十誡

◎人間的なれ
◎興味的なれ
◎解しめかなれ
◎讀み易かれ
◎諧謔的なれ（時に）
◎革新的なれ
◎奇想的なれ
◎誘惑的なれ
◎智巧的なれ
◎積極的なれ

新戀愛學講座

第八課 イットに就いて

記者

目次

一、戀愛の社會的意義　隱名子
二、法律から見た戀愛　在平研究生
三、戀愛經濟學　無滓庵生
四、青春醫學　石部通人
五、接吻學　原田道郎
六、新社交術　安藤文不
七、ラブレターの書き方　日戸修一
八、イットに就て　記者
九、逢引論語
十、失戀哲學
十一、最新避姙學
十二、新古戀愛漫談
十三、何したら男に好かれるか
十四、素人娘に持てる法
十五、藝者に持てる法
十六、女給に持てる法

イットと云ふ流行語は流行語として餘り長い壽命を持たなかつたやうに記憶する。一休イットが表して居る『性的魅力』なる内容は別段新らしい感覺ではない。我國の言葉で彼の女は色つぽいとか云ふのは男性が或女性の性的魅力を感じた場合に口にする言葉であつて多分の性的關心の存在することを知り得るのである。だからその性的魅力をアレと云つて敏感な現代人の感覺に暗示するやうにしたのは賢な語の使用法の上での面白味であると云つてよからう。最近流行語百科辭典とも云ふべきものに「イット」の項を見ると

「イット（英IT）直譯すれば「あれ」といふ代名詞に相當する。アメリカ閨秀作家エリナ・グリー女子の小説「イット」の中に曰く「イット」とは「男女夫々に發散するところの性的魅力である」とその何ともいへない性的魅力を「あれ」とつた所に此の語のくすぐる樣な妙味がある。その「イット」を映畫にしてアメリカの代表的女優クララ・ボウが主演したので俄然流行語となつた」

とある。ところが僕はその小説も映畫も見たことがないのである。從つて此所で說明しようとする「イット」は謂はゞ私獨特の夫であつて極めて普遍性に乏しいものであると御承知ありたい。だが性的魅力と云ふ如き人間の最も原始的な本能である肉体的慾求から派生する一の肉体的抑壓を徐々に現實生活から切り離して、これを紙上に研究することは堪えがたき屈辱である。

「イット」は決して「エロ」ではない決して「グロ」では斷じてないがその等しくモダン語である所以に「イット」の不健全性がありはしないか。健康な肉体、健康な精神にとつてはエロもグロもイットも一括してナンセンスである。盲目的な現代享樂生活時代に於ては時々ものゝ價値が轉倒する。美食に飽いて惡食を始めるやうに夫れが單なる食物に止まつとなく全生活に此の傾向が顯著となつて來るのである。だから社會の健全な方面にも變態的な徑路々々の結論にだつて此の傾向が多分にあつたかばこそ即ちイットの如き性感をその根本に於て極めて正しく研究することを避けて極めて抹消的に研究せんとする惡い洒落に共鳴してしまつたのではなからうか

だが私も無論…女性の感ずるイットは經驗して見やうもないが……感じのない譯ではない彼女はイットに富んで居ると聞けばハハーンと膝を打つ位の現代感覺の持合せがあるのである。だとこれを享樂して見やうとしないだけである。つまりお饒となればほしくはあるが望んでまで自分の物にしたくはないと云ふ心持——即ち記者の如く之が趣老を過ぎた男の心境としても言はうか現代人には極めて感覺的であるが之は一方に於て常態の感覺が鈍化して居ると云ふことである。例へば昔は食物の調理法などが進歩して居らなかつた爲めに一般に所謂美味といふものも從つて澤山になかつたに相違ないだから珍味佳肴と云ふも多くは人間の健康なる食慾そのものが料理人であつたのである。だから食慾の滿足する以外には貪り食ふことも少なかつた譯であるが近代になつては特に美味を造り出すやうになつた人間は腹に胃袋を滿足させるに滿足せずして更に味覺を刺戟して必要以上に……不健康な快樂を求めるやうになつたのではあるまいか。こんな關係が性慾とイットの間にも存在すると云ひ得ないだらうか

味覺を刺戟して食慾を誘進させると胃の弱い人とか或は發中などの食慾不振の場合は良いかも知れないが無病で飽食して居るのに甘いもの味はんとするのは喰べたくないのに喰べると同樣な結果を來すべきであり、その不自然、不健康であるのは論をまたない話である。有閑偶者がイットを云々するのは丁度此の場合に該當し無聊な偶者がイットを云々するのは恰も空腹時に饑の消耗を防ぐが如くいとも賤陋な話なのである

以上甚だ散漫で不得要領であるがイットの問題は斯く爪らしく理き詰つては面白味もなく甘味もなくなるのであることは先に述べた現代語辭典の文句で判ることゝ思ふ。だが今少し考へて見たいことはイット其ものは一体何であるかといふことである。つまり男女相互間に發散する性的魅力であると云ふ定義を今少し具体的に檢討して見たいのである。我々は個性に對してその性的魅力になるものを認識すると愛が出でないのが普通である時と云ふが如きは一種の感應であつて此の場合の關聯とはならないのである。そんなら異性間に於ては常にイットを感じ合ふ關係が成立するかと云ふに必ずしもそうでない場合は經驗上判ることとである。即ち特定の男又は女が特定の男又は女に對する場合にイットが存在するのであるがイットの定義に從へばイットは男女が一般に持つて居るものゝやうに規定して居るが、その魅力の作用の點になると非常に相對的なものとなる譯である。茲にある一人が性的魅力を大いに發散させてもその魅力に不感性な一人に作用してはやうがないのであつて此の場合此の兩者間に戀愛關係もまた發生しないのである人間には各々異つた個性があるから凡ての女が凡ての男に適合すると云ひ得ない丁度ラヂオを聽く場合に放送局の特有な波長に自家の受信機の波長が合致しない場合のやうなものである。ラヂオの波長は變更も出來るが人間の個性や趣味はそう容易に調節の出來るものでないから儀式の結婚が不幸な結果を見ることの多いのも無理のないとである

些か脫線の氣味であるが元來戀愛講座の一節であるから讀者諒恕の許しを願ひたい。次にイットは性的感覺、又は理解か存する男女にのみ感覺せらるべきである性的未熟な感覺者は恐らくは之をイットなりとして反省する感覺の訓練を有しないのであつて此様な場合に於て極めてロマーチックな初戀と云ふ奴が出來上り性的感覺者に在つては多くはデペートの罰殺を見ても稚戲の遊戲となつて終ることが多い。イットに就てはまだ色々と考へられるが夫れは後日にて譲りイットは夫れを發散させて居る男女は之を知ることが出來ないものである。つまり自分のイットはどこに在るか自分には判らないのであつて此ことは愛せられるものが常に戀する者よりも弱い所以であると申して此稿を終るのである

本縣多額納稅者一覽

これは直接國稅中の主要稅目だる第三種所得稅の納稅者一覽表で表中の金額は本年度決定の納稅年額でありまして本稅だけで附加稅は含んで居りません

九、八六二	西白河、三神村長	酒井寅次郎
五、七五〇	福島 醫師	大原一
四、一六三	北會津、館ノ内 農	牧原源一郎
三、〇八九	川俣 製絲業	齋藤茂平
二、九二六	郡山 地主	津野宮七
二、七三八	川俣 酒造業	氏家又次郎
二、六五三	長沼町 呉服商	深谷惠重
二、五六九	福島 請負業	大島長十郎
二、五三三	信夫、野田 農	阿部紀右衞門
二、四五二	若松 酒造業	新城猪之吉
二、一七九	信夫、水野 農	紺野猷信
二、一七一	若松 雜貨	岸萬平
二、一五七	郡山 商業	根本龜太郎
二、一三三	桑折町 會社重役	角田五郎
二、〇〇五	石城、泉 金融	江尻傳彦
一、九〇六	耶麻、醫業	遠藤源吾
一、八七二	若松 醬油業	林浩五
一、八三二	郡山 銀行、會業	佐藤齋兵衞
一、八七二	若松 酒造業	山口儀平
一、七六八	水郷町 味噌醬油	石橋寅藏
一、七六七	郡山 地主	遠藤彌三次
一、七五一	若松 酒造業	河野源九郎
一、七四九	平 金物商	諸橋久太郎
一、六七四	東白、常豐 頭取銀行	白石純美
一、六六八	若松 肥料商	阿部津平次
一、五六八	石城、内郷 酒造業	馬目太郎治
一、五五一	若松 漆器商	谷半兵衞
一、五三九	同 木綿、醬油	福西伊兵衞
一、五二四	同 地主	加藤榮吉
一、五〇八	同 金融業	加藤榮次郎
一、五〇三	東白、石井 地主	鈴木宗治
一、四八六	瀬上町 同	島貫平助
同	矢吹町 酒造業	大木代吉
一、四六一	信夫、荒井 地主	阿部和太治
同	同	阿部全治
一、三八〇	信夫、鳥川 農	矢吹友右衞門
一、三七九	若松 金融業	齋藤伍吉
一、三五八	同 同	羽金與市
一、三五六	郡山 地主	高田熊吉
一、二三五	飯坂町 政務次官	堀切善兵衞
一、二一九	田島町 酒造業	渡部又八
一、一六〇	福島 貴族院議員	油井賢藏
一、一四九	郡山 商業	佐藤傳三郎
一、一三九	河沼、若宮 農	山内忠次郎
一、一三一	郡山 同	横田治右衞門
一、一一一	東白、石井 同	藤井卯之助
一、〇八三	白河町 醬油釀造	川瀬作兵衞
一、〇一七	田村、移 農業	石井榮助
一、〇〇六	平 油、砂糖	百澤才八郎
一、〇〇三	大沼、新鶴 金融業	五十嵐清太郎
一、〇〇二	信夫、清水 農業	大内六右衞門
一、〇〇一	原町 地主	佐藤信成
同	同 金融	門馬直記
同	信夫、清水 農業	瓶子長吉

（以上五十四名）

小名濱漁市場問題

組合經營の存續か町營か 兩者協調して解決に努力

小名濱町に於ては從來漁業組合事業として魚市場の經營をなしつゝありて好成績を擧げて居つたが小野町長は之を町營として益々業績を擧げ地船は勿論、廻船の大漁獲に地方繁榮を計るには設備の完全、交切りの迅速、物資供給の安等をなすには資金の潤澤を要すべく是には町經營が最も其當を得るものとして二回に渡り總會町會協議を開きて大体其方針を決定したるもの如し然して同町漁港完成の昭和元年までには一ケ年三十五六萬程度の總水揚げ額なるに

二年　六十二萬圓
三年　七十八萬圓
四年　同
五年　八十一萬圓
六年　同
七年　安相場の爲七十六萬圓
八年　百萬に突破

以上の優良成績は漁港の効果を雄辯に物語るものである而して此の内容を示せば

總水揚額百萬圓の計算

△地船　四十萬圓
△縣内船　二十萬圓
△縣外船　四十萬圓

手數料の内譯

○他船　二分五厘（一萬圓）
○縣内廻船　六分（一萬二千圓）
○縣外廻船　八分（三萬二千圓）
計五万四千圓

廻船手數料四萬四千圓の内譯所得左の如し（町營すると見て）

町　一分五厘（六千六百圓）
組合　二分（八千八百圓）
廻船問屋組合　二分（八千八百圓）
鮮魚商　一分（四千四百圓）
代行者　三分五厘（一萬五千四百圓）

地船手數料一萬圓の内譯

町　二分（一千圓）
組合　三分五厘（三千五百圓）
鮮魚商　一分（一千圓）
代行者　三分五厘（三千五百圓）

斯くの如き數字を割出すとするには新に漁港設備費を町費を以て五萬圓を要すべく最も之を五ケ年据置き二十ケ年賦低利資金を借入れる時は一ケ年の元利計五千圓を償却せねばなるまい年水揚總額百萬圓を基礎として償還金を控除し三千五百圓は町の收入となるべく尚ほ西町に在る町有地を坪數十錢として之より一千二百圓の收得を計上すれば四千七八百圓の歳入となり現在町税歳入の三分の一に當るを以て是だけ町税は輕減される譯となるのである。一方縣下優秀なる組合とまで推稱され人格手腕力量共備の水野組合長は語る

町營事業のため、町利益のため組合經營の爲めの合理的施設ならば共同經營も可。組合に改善を加へたる方法も可。町營も又可なりであるが組合に經營の理解を擁はざるの行爲では組合長としては大なる誤解を要するものである。萬事は徹頭徹尾協議する積りで居ります云々

三千五百の會員を有する 磐城共濟會は何をする

大正十四年四月三日に開院式を擧げた平町磐城共濟病院は去五月中旬平町鍛冶町田中千藏氏の所有に歸して院名こそ變りはないが内容は全く一變して先頃計り『醫業は仁術の醫』であると云ふを掲げて職員一同は勿論、鈴木事務長は其の經營の手腕を揮して居る處より患者の信用は益々多きを加へて來たが三千五百名の會員より成る磐城共濟會が磐城共濟病院を經營する筈なるに共濟會は負債約五萬圓餘を遺して病院は人手に渡つた以上共濟會の使命目的は此處に完全に空なるものとなつてしまつたので八名の專任理事や二十名の理事、五名の監事は其の職する任務は何をなすのであらうか……此の多數の會員中には今以て磐城共濟病院は我等が一口十圓を醵出した株金で經營してゐるものと思つて居る者が相當にあるらしい。夫れにしても磐城共濟會なるものは何をなさんとするものであらうか自然解消か將又組織變更しての躍進か今後の成行こそ興味なくては叶ふまい

熱心努力の組頭

勤續十二年金馬簾十八條 鐵骨火見櫓の寄附

石城郡好間村消防組頭叶多浩氏は日露の役出征として從軍八等功七級の陸軍仕込だけあつて勤續十二年間の今日に至るまで多數火災季節に於て全村各部落十二ケ所の夜警小屋を夜間巡警巡視して組員の勵行統制に努め最近二ケ年間無火災名譽の好成績を擧げたが今般役場地内に工費約七百圓を投じて鐵骨火見櫓一基を寄附し近日中に竣功の筈なりと云ふが氏は先年小學校にも花崗石の校門を寄附したることもあつて社會奉仕に篤々なる善行は稱されて儀器の續々隆きを加へつゝありと云ふ

勞働者の大繁昌

石城郡北神谷村・大浦・大野の河口改修工事と四倉漁港工事とで昨今勞働者は引張凧の大繁昌をあつて鰯の豊漁に四倉町の五十集屋の如き手不足に雇入れに困難して居ると云ふ有様であるから年末の正月は勞働者連はホク〳〵の體で迎へられることであらう

石城郡内法人組織の總會社と其代表者

總計二百九社を數へ

合名三十四、合資百十一 株式六十四社也

平町
石城林業株式會社 鷹崎正見
磐城物產株式會社 久角
磐城鑛物株式會社 鈴木辰三郎
磐城商事株式會社 鈴木辰三郎
堀江工業株式會社 江口忠一
株式會社尾張磐城配給所 駒木根忠三
株式會社魁文堂 堀喜一
片倉磐城製糸株式會社 今井五六
好間軌道株式會社 大平新吉
平製氷株式會社 木村清治
株式會社平魚市場 金澤春吉
平造林株式會社 吉田禮次郎
株式會社平酒販所 坂本隆藏
平屠場株式會社 佐藤榮吉
平電力株式會社 栗原欣次郎
平運輸株式會社 森本盛一
平商業株式會社 栗原欣次郎
株式會社平マーケット 酒井溜夫
丸六運送株式會社 長谷川伊左衛門
明治造林株式會社 鈴木辰三郎
常磐毎日印刷株式會社 川崎文治
株式會社百澤商店 百澤才八郎
常磐モリス商工助成株式會社 佐藤慶太郎
常磐モリス證劵株式會社 淵商啓介
合名會社伊關呉服店 伊關助吉
合名會社東北化學工業所 小谷野國晋

合名會社小川屋本座 西脇庄次郎
合名會社吉田屋呉服店 吉田由三郎
山崎合名會社 山崎興三郎
合名會社森下商店 森下民藏
合名會社仙葉屋呉服店 明智榮司
諸橋合名會社 諸橋久太郎
合名會社松本榮一商店 松本榮一
合名會社ヘシモトヤ糸店 箕根井嘉門
合名會社鹽問屋商店 阿部政右衛門
合名會社鍋翠酒店 星野久八
合名會社田嶋商店 田邊忠造
合名會社城島商會 石島德長
合名會社磐城工業商會 中村佐治助
磐城新聞合資會社 鄭沼龍輔
合資會社染藤帽子店 吉田松次郎
同 花澤商店 花澤久一郎
同 大谷商店 大谷久藏
同 渡邊米穀店 渡邊傳之助
同 河内屋商店 白土七太郎
同 神谷染物店 神谷亥三雄
同 加藤商店 加藤稔
平殖產合資會社 白土正夫
合資會社田口商店 田口文平
同 高橋商會 高橋龍松
同 平銃砲火藥店 渡邊チウ
同 谷屋呉服店 藥谷エウ

同 根本品藏商店 根本品藏
野崎自動車合資會社 野崎潤藏
合資會社山家商店 山家重吉
同 松崎硝子製作所 松崎菊三郎
同 丸山組 丸山國治
同 松崎自動車商會 松崎安
同 松本屋商店 松本要三
同 桝田屋商店 鈴木定藏
同 丸山商會 丸山德平
合資會社丸龜商店 中野勇吉
同 馬目商店 馬目重藏
同 袋屋呉服店 片寄敬太郎
同 工藥商會 佐々木健一郎
小松合資會社 小松茂
合資會社安積屋呉服店 高田重郎
同 阿部源商店 阿部源造
同 旭屋商店 小野伊佐治
同 會田時計店 會田右京
同 佐藤鐵工所 佐藤源吉
同 佐藤商會 上村コト
同 三井呉服店 柏原榮次郎
同 篠塚商店 篠塚平八郎
合資會社スピイデー自動車 大内島吉
篠綿工場
合資會社三共商事 高橋義
同 世界館 阿部太平
同 中恒 中野ソウ

同 日光商會 刈野興三郎
同 上野葬儀所 上野賢一
同 本間綿店 本間三郎
同 諸橋呉服店 諸橋正次
同 織田商店 織田安次郎
湯光堂合資會社 關内フク
合資會社鵜頭商店 鵜頭鶴松
色川木材株式會社 色川勝三郎
株式會社丸ほん商店 佐々木宗代治
丸玉合名會社 馬目玉彌
合資會社磐城時報社 佐藤作平

江名町
ヤマト醬油株式會社 遠藤俊一郎
株式會社共榮商會 吉田正雄
合名會社中田商店 中田勇五郎
江名冷藏合資會社 遠藤俊一郎
合資會社共榮商會立審部 遠藤俊一郎
合資會社中ノ作鐵工所 吉田正雄
同 丸舟商店 山下三次
江名遠洋漁業合資會社 遠藤勝馬

高久村
合名會社和泉屋酒造本店 鈴木喜太郎

神谷村
合資會社中野屋商店 中野二郎

草野村
草野商業株式會社 山崎吉平
鈴木合名會社 鈴木孫三郎
合資會社草野合同運送店 片寄榮藏
丸八合資會社 八幡銀五郎
合資會社鈴木材木店 鈴木松之丞

大浦村
合資會社渡金醬油店 渡邊貫一
旭土地合資會社 四家英一

四倉町
合資會社吉田商會 吉田盛次
同 松本商店 松本重盛
株式會社四倉銀行 吉田保之助

四倉共同運送株式會社 大和田安太郎
寛年瓦工業株式會社 江口忠一
鱗屋合名會社 吉田豊
合資會社石河屋商店 石井德重
同 上澤自動車店 上澤幸吉
同 丸白商店 總木保平
合資會社丸天屋布商店 本田辰吉
合資會社麴屋商店 新妻金次郎
同 鈴木宇八商店 鈴木ハナ
同 武藏屋商店 根本庄七
同 大和田商店 大和田安太郎
同 古市松之助商店 古市松之助
同 鈴木商店 鈴木賢二
同 加藤屋呉服店 長谷川儀平
同 田村屋商店 鈴木光治
同 西川商店 西川總之助
同 紫武士商店 佐藤直之助
同 三星商會 川畑義雄
昭和漁業合資會社 吉田信安
合資會社吉田彌十郎商店 吉田彌十郎

大野村
合資會社農林社 木田織江

平窪村
合名會社草野屋商店 渡邊賢司
合資會社松吉屋酒造店 松木金市郎

赤井村
磐城煉瓦株式會社 西谷小兵衛
磐島炭礦株式會社 菊地德太郎
合名會社白川屋材木店 長谷川松良
小川運送合資會社 草野米彌
合資會社草野商店 草野米彌
同 小松瓦工場 小松均一

川前村
川前運送株式會社 永山德一
合資會社安藤商店 安藤金次

好間村
小田炭礦株式會社 荻原申八

好間興業株式會社 金成治
合資會社石田屋商店 鈴木重行
同 大平商店 大平新吉
町田酒造合資會社 熊谷彦信
齋藤合資會社 齋藤萬郎

内郷村
磐城劇場株式會社 初田千丈
吉田合名會社 吉田三郎
馬目合名會社 馬目太平治
遠藤合資會社 遠藤末藏
合資會社平田商店 平田良三
鈴木合資會社 鈴木佐市
合資會社佐川屋商店 佐川武治

湯本町
湯本信用無盡株式會社 鈴木康平
湯本合同運送株式會社 長岡義守
株式會社湯本青果市場 鈴木宇之吉
合資會社川端商店 江尻タツ
同 鈴木道太郎商店 鈴木道太郎
同 四谷商店 大井川榮重

磐崎村
磐崎商事株式會社 久田克位
株式會社甲子堂 磯上貫治
織内農業合資會社 織内孝平
磯上醬油醸造株式會社 磯上貞七

上遠野村
小澤合資會社 小澤貞久
櫛田酒造合資會社 櫛田爲代
鈴木合資會社 鈴木千之吉

田人村
合資會社松本屋材木店 綠川萬次郎
合資會社澤田商店 澤田トヨ
板津合資會社 板津辰彌

川部村
合資會社三澤鑛泉 安島金藏

勿來町
常磐自動車合資會社 青天目信治郎
東屋合資會社 小松章

磐城造林株式會社 赤津庄兵衛
石城殖林株式會社 赤津庄兵衛
勿來軌道株式會社 中野喜三郎
勿來自動車株式會社 北郷廣作
勿來運送株式會社 赤津庄兵衛
勿來製氷株式會社 小松章
窪田劇場株式會社 皆川喜内
合名會社共樂座 小松章
合名會社叶屋商店 北郷廣作
合資會社東屋商店 金川定男
同 赤津商店 赤津武雄

錦村
昭和合資會社 星勝助
合資會社高木商店 高木武一郎
同 篠原商店 篠原リツ

山田村
合資會社大平組 大平一治郎

植田町
植田運送合資會社 北郷繁七
合資會社八木屋商店 青天目齋作
同 丸五商會 山際作平
同 成瀬組 成瀬巳三
同 湯本自動車商會 坂本義吉
株式會社磐東銀行 江尻傳孝
常磐工業株式會社 小野庄一
植田水力電氣株式會社 金成通
植田漁業株式會社 鶯清昇
植田物産株式會社 金成通
合資會社植田屋呉服店 鶯金一
中屋合資會社 芳賀嚮
村松合資會社 村松義節
植田殖產合資會社 渡邊義一
合資會社山形屋商店 齋藤直一
同 丸一材木店 綠川信夫
同 寺島商店 寺島隆一郎
同 佐藤商會 佐藤文五郎

同 森木材店 森三藏
同 額谷商會 額谷四藏
鈴木合資會社 鈴木英次郎
綠屋合資會社 綠川多太郎
合資會社山崎屋商店 鈴木茂
株式會社金成商店 金成通

泉村
下川土地保券合名會社 江尻傳孝
吉田合名會社 吉田要之助
泉運送合資會社 小林元藏
合資會社上遠野商店 上遠野義夫
同 上遠野商店 上遠野豊次郎
同 松井清水商店 松井清水
同 佐全商店 佐藤金平
同 三戸木店 三戸源太郎
同 佐藤商店 佐藤一平

玉川村
丸誠農業養鶏合資會社 丹野清五郎
鈴木同族合名會社 下山田改輝

小名濱町
磐城海岸軌道株式會社 小野晋平
磐城水產工業株式會社 小野晋平
磐陽商事株式會社 岡山貢慈
小名濱商事株式會社 小野晋平
小名濱水産株式會社 水野政次郎
小名濱運送株式會社 平澤久次郎
飯塚合名會社 飯塚榮一郎
飯塚興業合名會社 飯塚磯右衛門
合名會社磐崎屋商店 小野しげ
同 岡崎屋本店 岡山重松
同 小名濱ホテル吉田屋 小松力
赤塚合名會社 赤塚乘助
合名會社清水屋商店 小野晋平
同 鈴木商店 鈴木茂八
同 菅原商店 菅原勘
合資會社藤商店 高木忠治

同 村上商店 村上淨代二
同 不二家 藤田憲
同 米屋商店 草野良太郎
同 山枡商店 馬上忍一
同 岡屋商店 小野朝吉
同 綠屋商店 志賀與平

以上

寄書

昭和八年を送る

江尻中

昭和八年は今將に暮れんとしをることの暮れ行く年の瀬に立て静かに此一年間の推移を回顧するといろ〳〵の思ひ出が走馬燈の如く頭の中をかけ廻る併し過ぎ去つてみると全く夢だ

世は益々不景氣で四苦八苦の狀は除一に遭遇する際には行かぬ「殺然の嵐が次第に太くなり振り廻される年の暮かな」は今も昔も同じ事だ今や國を擧げて或は國際經濟の不況に焦り或は軍縮問題に直面して我國々際的立場を憂へ或は政治機構の問題に迷ひ或は纖維なる思想の衝動を受けて不安焦躁の念にかられて居るのだ

正面から見ても裏面から見ても經濟から見ても四方八方塞がりの暗黒なる昭和八年も今や過去の二字に溺せんとして居る行け！永遠に！彼の地に葬り去る声を告げるや明るく朗らかな光る希望の元旦を迎えるとして讃唄すべき昭和九年西暦千九三十四年が誇られんことを期待する

晩歳書懐

不求名利不憂貧
隱處山深遠俗塵
歳晩天寒唯是友
梅花帶月一枝新

新聞界の將來

航空路發達で地方版の獨立

新聞界の近き將來の問題として等閑に附すべからざるものに航空路の發達を見逃す事は出來ない。既に定期航空路は羽田國際飛行場を中心に全日本に向つて漸次擴げられ西日本の主要都市連絡より海を越えて大連に至る線、東日本方面では長野、新潟方面も開拓され新聞紙の空輸は少量ではあるが日々試驗的實施で行はれてゐるがやがて航空路が全國主要都市を連絡した場合には東京並に大阪の大新聞は鐵道輸送を廢止し悉くこれに依つて地方版を輸送して地方新聞の活動範圍を現在以下に縮小させる可能性が十分にあるとされてゐるがこの最大なる地方版の空輸に止まらず航空路の發達は軈て大新聞社が現在理想として考へつゝある地方版『名古屋版』をその地方に於て印刷發行することに成功するであらうと豫期される。例へば東京を中心にして云へば、東北六縣並に北海道方面の地方版は交通關係で東京を離れゝば離れる程ニュースに於ても少からず地元新聞の攻擊に對抗することは多くの缺點を有してゐるのである、之をより完全にするには地元で、地方版を印刷することに依つてこれ等の缺點は悉く補はれる、それには新聞製作がスピードそのものである關係よりして航空機の力に依つて、寫眞に紙型の空輸を行ふのである、即ち政治經濟社會その他東京を中心の材料は東京で編輯しそれを紙型にして航空機に依つて輸送し地方版は地方材料の編輯に止まる事に依つてこの計劃は妙味は誠に深いものがある、東北六縣並に北海道の地方版は豫想市に輪轉機を据える計劃が地上尤も有利であるとその準備を調査した點もあつた位で將來の地方版は航空路の發達に依つて始めて理想的なものを作成し得るものである。然しこの航空路の發達は地方新聞にも一大改革を齎し、寫眞、記事の紙型は迅速に空輸される爲めその紙面は現在の地方新聞の缺點とされる種々の弱い特色が脫し東京紙と相對抗するに十分なる狀態を導くであらうがこれには非常な大資本を要する結果。こゝに於て地方版の地方印刷と相俟つて果然新聞大資本の聯盟が開始され綜合新聞聯盟系が出來、新聞は航空路の發達と平行して最高度の聯盟すべきジャーナリズム文化の黎明が展開される事は決して遠き將來ではない

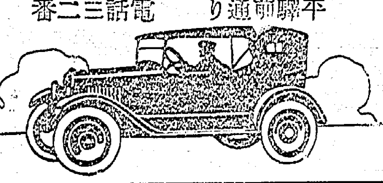
眼はどこまで

我々の眼は一體何處迄で見得るものであらうか天空を見た場合に殆ど計算することの出來ぬ程遠方を見得る點である何故ならば星からの光りは一秒十八萬哩の速度で數年、數百、數千、數億年かゝつて地球に達する、從つて我々は無限の彼方の星を見得る譯である然し地上では種々な條件があつて自ら制限される、即ち各人の視力、大氣の狀態光線の量、場所の高さ等である海岸から望む水平線は視力の届く最も遠い距離である今眼の高さが地上五呎にあれば約三哩先が見え、九呎あれば四哩、十四呎では五哩、廿呎で六哩、三十五呎で八哩、四十呎九哩、五十呎で十哩先が見える海面上一哩の高さに登ると九十九哩視野が擴がる光線た直進するものであるからこれ以上は決して望遠鏡でも見ること出來ない兎角眼は誤魔されて居るが望遠鏡は物をはつきり見せるだけである

乘心地のよい

貸切 不二タクシー

平驛前通り 電話三二番



タクシーは不二へ

鐵道省 福島縣廳 御指定

萬年瓦

福島縣四倉町 萬年瓦工業株式會社 電三八

慢自の優良品 牛も豚も

肉の御用命は

三二三屋

平町田町

閑靜にして家庭的

一泊八拾錢より

勉強 旅館

常陸館

平町大町（共濟病院前）

各國時計 眼鏡、貴金屬

△金銀高價買入▽

根本時計店

平二丁目 電話六〇七番

【御修繕は叮寧迅速にお勉め致します】

土木建築 請負業

福島縣双葉郡長塚村大字長塚

田中組合名會社

代表社員 田中清太郎

電話新山一番

土木建築 請負業

石城郡植田町驛前

成瀨組

成瀨巴三

あらゆる衣服の洗濯と染色

◎經濟と衞生とに衣服の保存整理の時期は今！

◎酸化作用を受け易い有色衣服類の色褪をして弊店工場獨特の技術と特殊な方法にて化學的に絕對無變色加工防止をする

◎植物纖維、動物纖維の一般衣服類に耐久力を添へ織布の特有性の光澤に色彩に最大の注意を拂ひ理想的洗染工程を行ふ店付

營業所 平町四丁目

工場 同大町

永山洗染所

鐵道省枕木御用達 炭礦用諸材

材木商 佐藤三平

本店 福島縣石城郡内郷村 電話平四三〇

支店 福島縣双葉郡浪江町 電話浪江七三

出張所 福島縣西白河郡矢吹町 電話矢吹四二

蔬菜、馬鈴薯、里芋、しやうが類に最も適應する

天然加里肥は

酸性なく土壤を惡變する虞は絕無です

然も安價で効果的なり

一俵 參拾錢

（大量取引は特に割引致します）

製造販賣 金成國雅

平町下川原 電話六八八番

貨物自動車の

御用命は特に勉强致します

内科。小兒科。外科。花柳病科

耳鼻咽喉科。レントゲン科

高久病院

院長醫學士 高久忠

平町田町 （電話五一三番）

内科小兒科。外科。内臟外科

花柳病科。肛門病科

入院隨時

市原醫院

平町田町 （電話一一四番）

磐城共濟病院

平町 電話 四六一番 二二四番

内科 小兒科 院長醫學博士 石山錬郎

産科婦人科 副院長醫學士 五十嵐雄二

外科 皮膚科 性病科 耳鼻咽喉科 X光線科 部長醫學士 有馬明二郎

物理療法科 醫學博士 石山錬郎

技術員 石山彦郎

藥局 藥局長 吉本孝平

衞生試驗所 藥劑師 高後利雄

事務長 鈴木實雄

小兒科、内科

特ニ乳幼兒ノ健康相談ニ應ズ

入院隨意

渡邊醫院

平町ねずみ坂

【電話一六一番】

漁業、鰹節 肥料製造販賣 廻船問屋 鰹餌鰮販賣

八島屋商店

立花雄七

福島縣小名濱港

電話一〇二番

電略（ヤシマ）又ハ（ヤ）

時事新聞を

何卒御購讀下さい

平町仲町

磐城通信社

星 敏夫

電話 六〇三番